

分科会 15

A C T などの精神科訪問看護 ～拠点の立ち上げ・維持・発展のために～

倉知延章（一般社団法人 Q-A C T 専務理事/九州産業大学 教授）

末安良光（あかつき会家族会 会長）

進あすか（トキノ株式会社 訪問看護ステーションみのり 統括管理責任者）

三尾弘明（トキノ株式会社 ケアステーションみのり ヘルパー兼生活支援員）

澤田高綱（特定非営利活動法人 共に歩む市民の会 旭区精神障害者生活支援拠点 ほっとぽっと）

司会進行：増子徳幸（一般社団法人てとて リンクよこはま訪問看護ステーション）

精神科病院からの長期入院から脱するために、またその後の充実した地域生活を送るために、訪問支援が必要となることがあります。近年、当事者・ご家族がその支援の担い手・支え手となる機会が重要視されています。

しかし、A C T のフィデリティ（評価尺度）でもピアサポーターの配置がうたわれながら、全国的にはピアやご家族が運営に関わっているチームはごく少数です。

そのような状況の中で、精神科訪問支援の事業に、ご家族・当事者の立場の方の関わりがある全国の法人や事業所 4ヶ所から、事業の立ち上げの経緯や支援内容をご発表いただきました。

その後、会場の皆様から質問をいただき、その質問に沿ったシンポジウム形式で議論を深めました。

●発表のポイント

支援者の「意味のある支援をしたい」という思い。ご家族の「親亡きあと」をなんとかしなければ、という熱意。当事者の方の「『あたり前』の生活をしたい」という願い。

それぞれの立場で一步目を踏み出し、情報発信することで繋がりが生まれ、具体的な支援の創出が可能となります。大切なのは、それぞれの思いや熱意に顔と顔の繋がりを持たせることで信頼関係を構築すること。また、事業の理念や支援の中身において「当事者の思いや語り」を土台・中心に据えることです。

●参加者（70名程度）からのご質問

次頁にまとめましたのでご参照ください。

●シンポジウムについて

次頁にあるように、会場にお集まりの方々からは「事業の運営」や「経営」という観点と同じぐらい、いやそれ以上に「支援の内容」についてのご質問が多かったです。まだ地域精神科支援の内容・中身について十分に発信されていないことの証拠でもあるでしょう。

だからこそ、現在その現場に携わっている一人一人が日々の支援や事業運営をしながらも、効果的・戦略的な情報発信やネットワーク構築のための努力を積み重ね、地域支援の仲間づくり、組織づくりをしていかなければならないと改めて感じたシンポジウムでした。

リカバリー全国フォーラム2015 分科会15 アンケート結果 「議論を深めたいポイントは何ですか？」			
1:当事者 2:家族 3:支援者 4:学術研究者 5:その他			
訪問実践支援について	職種・立場	多職種訪問のなかで、それぞれの職種が果たすべき役割 ×2人	3
		訪問看護におけるピアサポートの在り方について	4
	内容・方法	実際に三尾さんがどのように訪問先で活動しているのか 大切にしていることなど	3
		初日訪問時の介入方法	3
		澤田さんの「家族全体のリカバリー」について具体的に教えて欲しい	2
		「記録を一緒に書く」について 病識が乏しいなど、ご本人の目の前で言いつらい、書きづらいことはどのように残しているのか	3
		同スタッフが続いて訪問しているのか そのメリットデメリット	3
	成果	訪問先では具体的に何をしているか	2
		地域移行、地域定着の成果について	2
	未治療・治療中断	Q-ACTのクライシスハウスによってリカバリーをする人はどれくらいいるのか	2
ひきこもり状態の当事者や家族にどのような支援をしているのか その結果、どのように変化しているのか ×2人			
訪問支援への就労希望	訪問を家族が望んでいるが本人が望んでいない場合、どうしているのか ×3人		
	元ナースだったので転職したい	1	
	人と人の有意義な交流をするためにも、訪問看護もしくはACTをやりたい(PSW資格をお持ちの方)	1	
その他	私立の病院ばかりの日本で地域移行を進めるためには何が必要でしょうか	3	
	僻地における訪問看護の実際は？	3	
訪問拠点の運営について	拠点の立ち上げ	ACTの現状 普及において障壁になっていること マンパワー、金銭コスト、倫理的問題以外に何がある？	4
		人口10万人の小都市での樹立可能性は？	2
		医者がいなくてもACTができる！ということが参考になった	3
		家族会の中心となられる方は何人ですか 拠点の立ち上げまでにどのくらいの時間を割かれたのか	2
		家族会内で、どのようなプロセスで会として意志をまとめたのか	2
	事業の立ち上げでは、家族や周囲から反対や不安の声はありませんでしたか	3	
	地域での連携	地域での行政・医療・福祉との連携について	1
	必要なスタッフ	訪問時の支援者の人数やシフトの組み方	3
		訪問看護におけるピアサポートの在り方について	4
	スタッフの教育と福利厚生	訪問スタッフへの教育 特にリカバリー・ストレスモデルをどのように浸透させているのか	3
それぞれの事業所のスタッフの定着はどのような感じか おやめになられる方の実際の理由は？		3	
複数の事業	24時間365日の支援をする時のスタッフの負担 どのような勤務体制を敷いているのか	3	
	計画相談支援などと併せて行う上での工夫や苦労	3	
その他	PSWが訪問支援に携わるには、どうすればいいですか	3	
訪問拠点の経営について	財源	生保でない単身生活者など、無報酬の訪問もあるかと思うのですが、その実態と財源について	3
		諸経費の組み立て 行政の予算支援枠	2
	収入	1日あたり1スタッフの訪問件数はどのくらいなのか	3
		月にどの程度の収入、または何人ぐらいの患者さんを支援すれば経営が成り立ちますか	5
	その他	相談支援事業はどのように収入につながるのか	5
	ひきこもっている本人を医療につなげ、診療報酬内で点数を取るまでの苦労などあれば教えて欲しい	3	